

平成30年度第2回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録（案）

日時：平成30年9月27日（木）14時～16時

場所：熊本市立芳野小学校

○当日の日程

14:00 受付
 14:05 ～ 14:50 授業参観
 15:05 ～ 15:55 検討委員会
 ①モデル校の取組について
 ②小中連携・一貫教育推進スケジュールについて
 ③質疑
 ④協議 ～今後の方向性について～
 15:55 ～ 16:00 事務連絡

〔検討委員会議事録〕

古賀委員長	今回は、①モデル校の取組について、②小中連携・一貫教育推進スケジュールについて説明があり、その後に協議が予定されている。まず、モデル校から説明をお願いします。
芳野小教頭	小中連携に向けて、①小中連携組織体制の確立、②小中連携行事・活動の充実、③小中連携授業研究の推進、の3つの取り組みを行った。 『①小中連携組織体制の確立』については、研究の司令塔的な役割を担う組織として「研究推進委員会」を立ち上げた。「研究部」は研究内容の検討、原案作成など研究内容一般を担当し、「運営部」は提案された研究内容をスケジュールに載せ、日程調整等を含めて実際に動かしていくようにした。また、その2つの部を統括し、指示、判断を行う「統括部」を小中学校の両校長先生に担っていただくようにしている。さらに、「ICT部会」は全職員で構成する部会とし、小中連携部会へ提案を行ったり、逆に、意見を吸い上げたりするようにしている。 『②小中連携行事・活動の充実』については、最も大きな行事として小中合同運動会があげられる。この運動会も年を重ね、今年で10回目を迎えることができた。入学したばかりの1年生の手を引きながら活動をする中学生の姿を見て、気持ちが穏やかになったことを今でも憶えている。このような優しさと逞しさをもって活躍する中学生の姿を見て、小学生はあこがれ、「こんな中学生になりたい」という理想像を描くのだと思う。このほかにも、夏休みのリサイクル活動、小中合同で水防避難訓練など、中学生がリーダーとして小学生とともに活動をしている。このように芳野小・中学校には、これまでに小中連携についての様々な実践が積み重ねられてきている。そこで、研究指定を受けたこの機会に、これまでの活動を整理したり、道徳や特別活動などの授業で取り上げたりすることで、自分たちの活動に価値付けを行っていかうと考えている。 最後に、『③小中連携授業研究』については、2つの内容に取り組んでいる。1点目は、小中学校が共同で研究を行うことである。共同研究を行うために、ICT部会と小中連携部会を設定し、小中学校の全職員が、2つの部会に分かれて所属することになっている。そこでは、ICTの効果的な活用方法や深い学びにつながるための手立て、小中連携として義務教育9年間でどのような力を育成していけばよいのか、そのためには日頃からどのような取組を行っていけばよいかといった協議を行っている。2点目は、小中学校の指導者が協力しながら授業を行う、乗り入れ授業である。本日は、5年生の外国語活動と6年生

	の音楽の授業を見ていただいたところだが、この「乗り入れ授業」は、2学期からスタートしたばかりで、まだまだ深い学びに到達したとはいえないが、可能性を秘めた取組だと感じている。
荒木委員	2学期からの乗り入れを始められたということだが、小学校の先生と中学校の先生の打合せの時間をどのように位置づけられているか。
中西委員	小中学校合同での会議の設定は時間的に難しかったが、5月に第1回全体部会を実施し、そこで組織づくりを行った。第2回全体部会は夏休みを利用して、2学期以降の計画づくりを行った。2学期から乗り入れ授業をするにあたって、どの教科や単元でできるかを話し合い、乗り入れ授業の計画を立てた。乗り入れ授業は、今月2回目の取組だが、10月以降も本日のように小中学校の学校行事に無理がない形で実践をしながら、より深いものに進めていければと思っている。
芳野小校長	本時の授業についても打合せの時間がなかなかとれずに、昨日打合せをしている状況である。放課後に集まるしかないところが課題だと感じている。
古賀委員長	質問がないようでしたら、次に事務局からの説明をお願いします。
事務局	2点について説明する。1点目は、第1回検討委員会において指摘があった点について報告する。第1回検討委員会では、小中一貫カリキュラムと小中連携カリキュラムの区別がわかりにくいという指摘があったので、古賀委員長の助言をもとに、p9のように整理した。具体的には、教科内容に関するものを「小中一貫カリキュラム」、あいさつや学習・生活ルールなど活動に関するものを「小中連携カリキュラム」と整理したところである。2点目は「小中連携・一貫教育推進スケジュール」についてである。第1回検討委員会で、「各グループの目標を設定しては」との意見があったことから、A～Cの全グループの取組と、先進校及びモデル校のAグループの取組に分けてスケジュールを整理している。(途中省略)
塩津委員	小中連携を推進する上で、PTAの役割はとても重要だと思う。「議論のまとめ」を作成しているが、これをPTA役員の方々と共有して一緒に取り組めるのはよいと思う。 また、資料p9のCグループの図については、小・小連携、中・中連携も必要である。
古賀委員長	保護者に対する丁寧な説明はこれまでも求められていた。今回の「議論のまとめ」を保護者の方に提供することは、「小中一貫教育はこんなことを目指していますよ。」というわかりやすいメッセージになり、意味がある。
多賀委員	p6に「希望する校区は小中一貫校へ」とあるが、もう少し詳しく説明をしてほしい。
事務局	「希望する校区」とは、小中一貫教育の制度化へ向けた準備(体制)ができた校区という意味である。Aグループについては、各学校の取組状況や地域のニーズなどから、富合小中学校区、芳野小中学校区の小中一貫校への移行を考えている。Bグループについても、可能な校区があれば相談しながら進めていきたい。楠中学校区はモデル校として取り組んでいただいているが、制度化と

	いうカリキュラム開発のところは、「まだハードルが高い」ということも聞いている。各校区の取組状況から、できるものとできないものをしっかりと精査させていただき、学校の体制と地域のご理解が得られればすぐにでもという思いではいる。
芳野小学校長	Aグループの中に小学校の教科担任制という言葉があるが、小規模校ではやりにくいところがある。中学校みたいに何クラスもあればできる。小規模校は学年を変えて取り組むことになるので大変になる。Bグループでの教科担任制を進めたほうがやりやすいのではないか。
事務局	学校規模や状況で適宜変えていかないといけないと思っている。小学校内での教科担任の持ち回りは、2～4クラスある方がやりやすい。むしろCグループの方がやりやすいと思っている。実際に、Cグループの学校にも投げかけて、可能ならやってもらえないかという話はしている。どちらかというとなAグループは中学校と小学校の相互乗り入れを活用した教科担任制を想定している。これからの研究対象になると思う。
荒木委員	今年度モデル校として、単元の入替えで教科担任制ができないか考えている。理想的には教科担任制がいいと私も思うが、難しいところもある。小学校に小中一貫に関わる人として、教科担任ができる人材を置いていただけるとありがたい。小学校から中学校へと積極的な職員もいるが、学級担任をしていると難しいところがある。高学年のこの時期ならできるという方向性も考えているが、市教委が可能な手立てをとってくれるならいいと感じている。ただ、今回モデル校をさせていただき、「目指す子ども像」を共有してつくと、小学校と中学校の先生方の考え方に違いがあってお互いの考えから学ぶことが多いと感じた。モデル校は継続できるかわからないが、お互いにしっかりつくっていききたいという気持ちはある。
古賀委員長	モデル校をこれからも継続するか、どうかという話は、しっかりと議論していただきたい。そのとき重要なことは、モデル校を継続して、次の年度はこういうことに焦点化して研究したいとか、この課題があるのでここを深めたいとか、先生方が共通理解しておくことも必要かと思う。
小田委員	富合小中学校は、4教科（英語・音楽・技術・家庭科）で中学校から小学校へ乗り入れ授業を行っている。効果的と思うところもあるが、効果的なT・T指導ができているのかを疑問に思うこともある。効果的な指導を行うには打ち合わせの時間が必要だが、現状は取れていない。中学校の教員は、T1を担当することが多い。指導が効果的かという課題もあるが、評価の問題もある。 今後もどこかの教科でとか、小学校から中学1年生の厳しい子どもたちの授業に乗り入れを行うなど考えているところだが、どういった形にするかを考えた場合に人の配置が必要になる。現在（乗り入れの）は4人のうち3人は副担任だが、担任の確保は厳しい状況である。担任が学校を離れるのがネックになっていると感じている。
事務局	モデル校の期間や人的配置の部分については、市教委として小中一貫教育の方向性を考え、そこもトータルで考えている。人的配置は状況を聞きながら必要などころには配置できるように検討したい。モデル校の継続をお願いすることもある。

橋爪委員	4点ある。1つが、マンパワーについて。今、小田委員が言われたように、「少人数」で「小学校から習熟度別で」厳しい子どもの学級に小学校の先生の力を借りたいとか、根拠をもった取組の意思表示が大事だと思う。せっかく小中一貫教育をやるのであれば、その辺のマンパワー、それからコーディネーターを含めたところで、この2校には「これを研究させてくれ」というだけの研究の方向性を訴えてもらわないと、ただ単純に「人が必要だ。」というレベルでは加配を置くことが認められるのは難しい。小中学校が一緒になって主張することは大事だと思う。またその方向性で確実に1年間実践して、全市的に取組を広報することも大事な柱ではないかなと思う。 2つ目は、p 8の平成31年度に全小中学校区で連携カリキュラムを作るとあるが、今年度どこかの学校で雛形が出てこないと、ただ全小中学校でお願いしますと言っても、それを引っ張ったり、モデルになるものを見せてもらわないなら、一発普及は難しいと思う。この計画案から心配している。 3点目は、32年度に小中一貫教育研究校を指定とあるが、研究校はこの上の富合、芳野、江南、河内、二岡ではないところにするのか。 4点目は、小中一貫カリキュラムの作成については、33年度とあるが、これは2年ぐらいかかるという見通しなのか、それとも新学習指導要領との関わりで2年先にしているのか。
事務局	小中連携カリキュラムについては、幼小中連携担当者会（5月）で、今年度は「連携の柱」をすべての校区で設定し、来年度は「連携カリキュラム」を作成してもらうことを伝えている。Aグループの先進的な取組をされているところは、すでに学校独自のものを作成しているところがある。
橋爪委員	それなら、「Aグループではできている」と書いてあるとわかる。
事務局	一貫カリキュラムはA・Bグループで「平成33年度・・・作成へ」としている。ここで完成というわけではなくて、中学校の新学習指導要領の開始に合わせた計画にしている。Bグループにも一貫カリキュラムの作成をお願いする。 現段階でモデル校や指定校を決めるにあたっては、小中一貫をただお願いするのではなく、核になる取組を学校と相談しながらお願いしている。例えば、江南校区では「総合的な学習の時間」で何をするかという視点からの小中連携カリキュラム、芳野校区ではICTの活用の視点からの小中連携のカリキュラムなど、各学校が独自の小中一貫教育（9年間での育ち）のイメージをもてるようなカリキュラムを考えている。
多賀委員	p 8のスケジュールの教科担任制については、各学校に「全体構想」を早く伝えないと、予定通りにはいかないのではないかな。
事務局	教科担任制については、モデル校にはすでに取り組んでもらっているところがある。全市的な実施になれば早く伝えることは必要である。ただ、教科担任制をどのレベルまで実施するのか、単元レベルとするのか、また評価の問題もある。小学校では以前から教科担任制にした方がよいという意見はあったが、そこに踏み込むことはできなかったと聞いている。学級担任だけでなく、教科担任や他の教師を含む複数の目で、子どもたちを育てていこうという発想は大切であり、教職員の意識改革にもつながる。これは小中一貫教育の柱になると思っている。
中西委員	まず1点目、今日の英語の授業にはALTが見学にきていたが、ALTは定

芳野小学校長 古賀委員長 事務局	期的に授業に参加するので、A L Tを含めたところでの小中連携は今後の検討課題だと思う。2点目は、乗り入れ授業で中学校の先生が1人で指導することができると、小学校の先生方の負担軽減になる。そのことも今後の検討課題だと思う。 中学校の先生にT 1をやってほしいというのが本音であるが、評価の問題があるため、小学校の学級担任が授業に参加していないと評価ができない。中学校の先生が評価までできるのであれば、中学校の先生とA L Tで授業することができる。子どもたちの実態がわからないので、すべて中学校の先生にまかせるということは難しい面がある。 冒頭の芳野小・中学校の取組の中で、3つのことを始めたと思った。「組織体制の確立」「行事活動の充実」「授業研究の推進」の3つである。大事なのは一番初めの「組織体制の確立」である。今後全市的な拡大を目指すためにはこの取組みの戦略的な意義をもっと啓発していく必要があると思う。特にBグループのようにこれから「小中一貫カリキュラム」の作成に取り組もうとしているところには、研究推進委員会や専門部会などの作り方、システムの意義をきちんと説明する。そうすることで、授業研究やカリキュラムづくりは先生方の専門分野なので、自然にできていく。どのような推進のための組織体制を作っていくのか、このあたりも今日の検討委員会で情報発信していただいたので、これから共有化していく必要があると思う。 事務連絡 ・次回検討委員会の日時 11/19 月 10:00 ・「議論のまとめ」は各種団体で活用 閉会
---------------------------------------	---